

「創造」ということ

周知のとおり、本校の校訓は「進取、努力、創造」です。今回はその中の「創造」について私の考えていることを伝えます。

「創造」とは、「新しいものを自分だけの考えや技術などで初めてつくり出すこと」（『日本国語大辞典』）とあります。しかし、高校生にこうしたことを求めるのはかなり無理があるのではないのでしょうか。一体、先人たちは何を意図して校訓にこの言葉を選んだのでしょうか。それを考えるヒントになるような事例を紹介します。

東京藝術大学では卒業課題として「自画像」の作成を課しています。明治時代から今日に至るまで作成された作品は5000点近く、現在も大学美術館に大切に保管されています。写実的な作品から抽象的な作品まで、洋画・日本画で多様な作品が残されています。中でも印象的なのが、戦中と現代の作品に共通してみられる「曖昧さ」です。戦中の作品には目が描かれていないものが多く、平成以降の作品には輪郭や部位さえも不明な抽象的なものが目立ちます。時代や社会の閉塞感や不透明さを作品の中に発見することができます。

さて、「創造」を学ぶ最高学府の卒業課題がなぜ「自画像」なのでしょう。そこに私は「創造」とは何であるかを知る鍵があるように思います。東京藝大の学生は大学で基礎訓練を積む中で時に先達作品の模写を行います。自画像にも時代を代表する画家たちの影響がはっきりと見て取れる作品が多くあります。しかしいくら巧みに模倣できたとしてもそれ以上のものではありません。そこで自らを内省することが必要となります。「模倣を取り去った後で何が残るのか」について徹底して自己を見つめるのです。さらにそれを「自画像」として表現するというので、内省したものが他者の厳しい目に晒されるのを想定し自己をより客観的に見つめることが求められます。こうした過程がオリジナルなものを生み出す「創造」の第一歩となると考えられているのではないかと思います。

こうした過程は高校生にも無関係ではありません。授業や部活動で「学ぶ」ことはまず第一に「真似る」ことです。授業で習った例題をもとに練習問題を解いたり、部活動で先輩や指導者の型を真似ながら習熟していきます。しかし「真似る」だけに終始していたのでは発展がありません。時に学習した内容を自分なりにまとめ直したり、仲間と話し合ったりすることで、「真似る」を超えた「オリジナルな学び」に発展する可能性が拓かれてくるものです。高校生にとっての「創造」とは、まずこうした能動的でオリジナルな学びを意味するのではないかと考えます。

（文責：今井雅）

1年の窓

期末考査が終わりました。出来栄えはどうか？良い結果だった！と胸を張って言える人が多いことを期待していますが、不本意な結果だった人も多いでしょう。しかし“結果”はともかく“取り組み”は自分の意識次第で、毎回納得出来るものが出来るはず。卒業まで時間はあります。結果の反省は勿論必要ですが経過の反省をそれ以上にしっかりとしましょう。

さて、10月末には希望者受験の全統模試があります。この模試は進研模試と違い、本気で四大を狙う学生しか受験していません。そのため本物の入試を意識した問題ばかりで構成され進研模試より格段に難しいですが、だからこそ今この時期に挑戦したいですね。入試問題とはどのようなレベルのものか、現在の自分との距離はどのくらいあるのかというイメージが掴めてこそ、卒業までの時間がより有効に使えるからです。求む！挑戦者！！

（文責：鈴木）

2年の窓

本日から後期がスタートし、2年生も半分が経過しました。前期を振り返って、どんな半年間だったでしょうか？勉強・部活・桔梗祭など頑張ったものはそれぞれあるかと思いますが、進路指導部としては勉強と進路の話をしていきます。

後期には、皆さんに自分の進路について具体的に考えてもらう機会が多く設定されています。来週には進路説明会があり、11月には学部学科講話が行われます。前期の最後に先輩と語る会を開きました。学生生活や大学について、様々な話を先輩から聞く事が出来たかと思えます。学部学科講話では、大学の教授を学校に招いて各学部や学科の特色を実際に説明して頂くというものです。自分の進路を選択する上で有意義なものになるよう、積極的に取り組んでいきましょう。

そして、今月末には第2回進研記述模試！こちらの準備もお忘れなく…。

（文責：堀内）

3年の窓

いよいよ3年生後期の始まり！！全力で学力向上を！！

いよいよ3年生の後期が始まりました。多治見高校での生活も残りわずかですね。悔いのないよう全力で勉強に向かってほしいです。3月に笑顔で卒業できることを期待して。

さて、10月から12月にかけて一番現役生の学力が伸びると言われています。4月当初、様々な先生が「学力が結果として現れるのは2か月後だ！だから、2か月後を見据えて我慢して取り組もう！」と言っていたのを覚えていますか？7月から夏休みにかけて真剣に取り組んだ生徒はそろそろ成果が出始める頃だと思います。今（9月）の成績で心を折らず、自分を信じて精進していきましょう！！ここからが本当の勝負です。10月に模試が続きます。そこで是非把握してみてください。

また、みなさんの中には、推薦入試を受験する生徒がでてくると思います。推薦入試も簡単で気楽な入試ではありません。事前準備をいかにするかで大きく結果が変わってくるでしょう。ですから、早めに取り掛かることが大事です。しかし、推薦ばかりに力を注いしまうと肝心の学科の実力がつかなくなってしまうがちです。本来は、一般入試が一番合格者が数多く、ここで勝負するのが普通です。ですから、推薦入試を受ける生徒は、必ず一般入試対策をメインに行っていく前提で、推薦入試対策をするように心がけましょう。一般入試のみの生徒より忙しくなるのは当たり前です。

「今日の成果は過去の努力の結果であり、未来はこれからの努力で決まる。」

稲盛和夫：KDDIの創設者

（文責：波勢）

○文系の窓○

大学の補足事項について

3年生に配布された『栄冠めざして 2015 VOL2』をちゃんと熟読していますか？もう遅いかもしれませんが、センター試験の社会科学目に関しては、5-7型以外のほとんどの大学が第一解答科目のみでの勝負となっていますが、都留文科大学や敦賀市立看護大学などは地歴か公民の高得点科目を優先するとあります。安易に教科をしぼり選択の幅を縮めてはいませんか？もし、しまった！と思った人は、細かな情報までしっかりと自分で確認しましょう！『栄冠めざして』のP407～補足事項として様々な情報が掲載されています。各自でチェックしてもらうためにも、少しだけ書いてあることを紹介します。

名古屋市立大学 経済学部 後期試験

個別学力検査受験者で、センター試験が上位 20 位以内となると、個別学力検査の結果にかかわらず、センター試験の成績及び調査書を総合的に判断して、最終合格者とする。

兵庫県立大学 経済学部 前期試験

センター試験（英語選択）及び個別学力検査の外国語（英語選択）の配点で上位 45 名を合格とする。

愛知教育大学 教育学部 前後期試験

個別学力検査等は各配点 30% を最低基準点とし、これに満たない場合は不合格。

以上のように、細かい補足事項がある大学があります。私立大学にももちろんありますので、各自で把握してください！！（文責：波勢）

○理系の窓○

センター試験まで、あと 107 日（10 月 1 日現在）になりました。3年生は自分の進路に向かって全力で演習に取り組む時期です。この時期になると、似たような学部の違いや適性について生徒から問い合わせがあります。1年生は文理選択を、2年生は志望校について調べる時期です。そこで、今回は理系学部の微妙な違いと適性についていくつか取り上げたいと思います。

○理学部と工学部の違いは？

理学部はこれまでにあった理論や原理をさらに深め、新たな法則の発見を目指す基礎研究をしています。一方で工学部は、既に明らかになっている法則や原理を応用して、私たちがより良い生活をするために研究を活かす応用研究を行っています。また、2つの学部の適性として、法則や原理そのものに興味を持つ人は理学部に、法則や原理を使って何かを作りたい、役立てたいと思う人は工学部に進むのが良いと私は考えます。

○数学科に進もうと考えていますが・・・

数学が好きだから数学科に進むということは否定しません。ですが、高校の数学と大学の数学は根本的に違います。なぜ1足す1は2になるのか？から数学が始まります。大学の数学は哲学のようなものです。数学をパズルとして扱うことや計算することが好きな人、数学を解くことそのものが好きという人は、大学の数学に大きく違和感を感じると思います。学校の勉強とかけ離れて数学を探求している人が適していると思います。

秋は進路を考える季節です。是非多くの先生に質問し参考にしましょう。（文責：竹腰）

☑総合学習の扉☑ 今回は中間発表でのヒントを紹介します。

たくさんの人に何かを伝えるには、普段とは異なる、分かりやすい説明のコツが必要です。

- ① 表現は聞く人の知識レベルに合わせる。
 - 専門的な用語をいきなり使わない。
 - 誰でも知っていることから、知らないことへと関連づけて話す。
- ② 重要度の高いもの、テーマや結論を先に述べる。
 - 細かい話からスタートすると、聞いている人が何についての話なのか分からない。
- ③ 研究テーマの全体像を説明してから詳細を説明。
 - 研究テーマ、テーマを設定した理由、調査した内容、考察、など順番の組み立てを工夫する。
- ④ 研究の前提となる情報は先に説明しておく
- ⑤ 簡潔な文章で話す
 - 1つの文章で1つの内容に絞る。
 - 5W1Hを意識して話す。
 - 二重否定の表現を使わない。（「晴れなくもない」など）

人前で話すことも、経験を重ねることで上達します。また、そのための練習も必要です。ぜひ、上記の内容を意識して10/19から始まる中間発表にのぞんで下さい。 『学びの技』玉川大学出版部より参照

（文責 谷）

○Book Review○

『知識ゼロからの科学史入門』

著者 池内 了（国公立大学法人総合研究大学院大学 教授） 幻冬舎

理科の教科書では、法則を見出したり、新たな発見をした人の名前が書かれています。毎日の学習では、みなさんはその人の名前と法則や発見を単に覚えて活用するだけになっていませんか？また、それらの人は天才だから発見できたと思いませんか？

この本は科学がどのように発達してきたのかを説明する中で、科学者の努力や失敗、成功に至るまでの過程など苦労話がいくつも載っています。また、科学はだれか一人の天才が進めるものではなく、何人もの科学者が考えをぶつけ合って、深めていくものです。

1人の法則の発見の裏には敗れ去った科学者が沢山います。

自分が知っている法則や科学者について、どんな人生や苦労があったのかを知るために是非読んでみて下さい。

（文責：竹腰）

